

新名誉会員のご紹介

令和6年度通常総会において、本会名誉会員に次の2名の方が承認されました。

きっかわ こうへい
吉川 公平

吉川公平先生は、1981年東京理科大学薬学部を卒業後、製薬企業における循環薬理を中心とした創薬研究プロジェクト（Ca拮抗薬、ET拮抗薬、ファクターXa阻害薬、PDE5阻害薬、レニン阻害薬、アルドステロン拮抗薬および合成阻害薬など）のリーダーを務め、開発品創製に成功された他、PDE5阻害薬のリポジショニング研究により上市品の創製（アバナフィル、性機能改善薬）にも貢献されました。日本薬理学会では、理事・学術評議員・委員会委員を務められ、製薬企業の立場から産学連携の推進、人材育成、薬理学会における新規創薬モダリティーの認知度推進を通じて学会の活性化に務められ本学会の発展に多大なる貢献をされました。

（文責：安西尚彦）



たかはし けんぞう
高橋 健三

高橋健三先生は1982年に東北大学薬学部をご卒業後、同大学大学院薬学研究科修士課程を修了し、同年に大正製薬株式会社に入社されました。企業の薬理研究者として幅広い疾患領域（高血圧、狭心症、不整脈、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症、糖尿病、喘息、炎症、骨粗鬆症、感染症など）における治療薬の研究開発に従事され、薬理機能研究所長、医薬研究本部副本部長等を歴任する中で、糖尿病治療薬ルセオグリフロジン（ルセフィ®錠）および経皮吸収型鎮痛消炎剤エスフルルビプロフェン（ロコア®テープ）の創製に貢献されました。日本薬理学会では、学術評議員33年、理事2期3年、委員会委員4期7年、年会学術企画委員長1期2年を務められ、企業の薬理研究活性化と本会の産学連携に多大な貢献をされました。

（文責：高橋禎介）

